

ゲーム感覚、遊び感覚いっぱいの漢字教育

家庭で子供に漢字を教えてやってほしいというと、子供を机に座らせ、親がその横であれこれ指導するという図を描いていませんか。それは、すぐに打ち消してください。

くり返しますが、小学校低学年までは、機械的記憶の能力、つまり丸暗記力に優れていますから、環境さえ整えてやれば、子供は好奇心や探求心をふくらませて、どんどん漢字の読み方をマスターしていきます。要は、子供の好奇心や探求心にスイッチを入れる環境づくりをどうするかが、大きな課題となります。

あなたのお子さんは、何をしているときにいちばん、目を輝かせていますか。そこに、ヒントがあります。机に向かうのは嫌いな子供でも、遊びやゲームが苦手という子供はいないでしょう。そうです、漢字カードやかかるた、絵本、読本などを使って、遊び感覚、ゲーム感覚で漢字に親しむように工夫してやればいいのです。親子でいっしょに楽しみながら、漢字に強くなっていくというわけです。親子の密度の濃い触れ合いの時間を、「漢字」を仲立ちにして作ることにもなります。

私が提唱してきた石井式漢字教育でも、こうした点を大切にしてきましたが、たしかに、これこそ子供がどんどん漢字が好きになっていく秘訣なのです。具体的な遊びやゲームなどの方法については、4章で紹介しますので参照してください。